

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	飯田荘施設運営事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	保健福祉部	課等名	飯田荘		包含する細々目	16	1	2	1			327,991
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり					16	2	1	1			30,359
施策	35 高齢者福祉の推進					16	4	1	1			150
						16	6	1	1			100
実施区分	継続	会計	特養	環境調整会議	不要	関連計画 条列等		飯伊圏域介護保険計画				
		事業期間	19	年度～	23	年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	認可を受けた入所定員	施設入所定員:床	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			60	60		
		短期入所定員:床	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			10	10		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	認可を受けた入所定員を最大限に活用し、介護を必要とする高齢者に安全安心な生活を提供する。	施設入所利用率:% 施設入所利用者数 / 施設入所定員	18目標	89	最終目標	98
			18実績	90	19目標	98
			23目標	98	23実績	
		短期利用利用率:% 短期入所サービス利用者数 / 短期入所定員	18目標	113	最終目標	85
18実績			142	19目標	85	
23目標			85	23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	飯田荘は、南信州広域連合が昭和50年に設置した介護保険法に基づく介護老人福祉施設である。平成16年4月から指定管理者として飯田市が運営してきたが、施設が市に譲渡されるのに伴い、平成19年度は設置・運営を市が行う。平成20年度からは社会福祉協議会へ指定管理し、運営を継続する。認可を受けた定員の活用により、当地域における介護を必要とする高齢者を対象に、安全安心な生活を提供し、最期まで人間としての尊厳を保持できるように支援するとともに、当該高齢者を介護する家族への間接的な支援を行う。飯伊圏域介護保険計画に基づき平成15年12月から実施してきた施設入所定員の削減により平成19年度は最終目標定員60名で運営を行う。	飯伊圏域介護保険計画に添い施設入所定員の削減計画を遂行する。 施設入所ベッド70床、短期利用ベッド10床を有効に活用し、地域の介護ニーズに応える。 1 定員削減に合わせて、居住環境の改善を図る。 *定員削減のため、施設入所の新規受入は行わなかった。 *短期入所には空床利用分を含むため、短期入所の利用率は100%を超える。	施設入所利用率(%) 短期入所利用率(%) 施設入所延利用者数(人) 短期入所延利用者数(人)	90 142 22,984 5,199
		2 認可を受けた施設入所ベッド60床、短期入所ベッド10床を有効に活用し、地域の介護ニーズに応える。 社会福祉協議会への指定管理を円滑に行うための準備を整える。	施設入所利用率(%) 短期入所利用率(%) 施設入所延利用者数(人) 短期入所延利用者数(人)	98 85 21,560 3,110

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他	78,741	82,654
	一般財源	14,578	14,476
事業費計(A)	93,319	97,130	
人件費	正規職員所要時間	18年度 73,872	19年度 73,118
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	264,166	261,470
	トータルコストA+B	357,485	358,600

特定財源内訳や補足事項	サービス収入ほか
-------------	----------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	安心していきいき暮らせる	飯田市内の介護保険施設の入所定員数:人	現状値	850	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	850
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
広域行政組合会議において、当地域の高齢化対策が求められ、飯伊圏域の特別養護老人ホームとして設立。阿南荘とともに当地域の老人福祉施設の先駆けとなった。 平成12年度に介護保険制度が導入され、介護保健施設として知事認定を受けた。 平成16年度には運営主体が南信州広域連合から指定管理者として飯田市へ移管された。	当地域は、既に「高齢化社会」から「高齢社会」へと移行し、少子化と相まって、一層要介護高齢者とその家族に対する介護支援が必要となってきている。 介護保険制度の改正により、活発であった民間事業者の参入が鈍化してきている。 広域連合が各施設を所在する市町村へ移管する決定をしたため、19年4月からは飯田市の設置する施設となる。	広域連合で施設入所を調整しているが、待機者数は600人を超えている。 新規に開設する民間施設は、ユニットケア型が中心であり、高額な利用料を要する施設が多く、低所得世帯を中心に低廉な負担で利用できる公的施設への需要も依然として多い。 公的施設の民営化については、現状のサービス水準が維持されることを前提に検討すべきとしている。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input checked="" type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	飯伊圏域介護保険計画に添い、施設入所ベッド60床、短期利用ベッド10床の認可を受け、地域の介護ニーズに応える。 平成20年度からは社会福祉協議会へ指定管理する。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	運営が変わることによる利用者サービスの停滞が無いようにするための対応策

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	